

第 1 回

渡良瀬遊水地エリア 検討部会

**関東地域におけるコウノトリ・トキを指標
とした生態系ネットワーク形成基本構想**

<会議説明用・一部抜粋版>

平成28年1月25日

< 会議説明用・一部抜粋版 >



関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会

- (1) 短期目標 (2020 年)
- (2) 中期目標 (2030 年)
- (3) 到達目標 (2050 年)

2. 関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成の基本理念・基本方針

● 基本理念（目指すもの）

関東地域におけるコウノトリ・トキの舞う

魅力的な地域づくりを目指して

関東地域は、水辺の生物多様性が豊かであり、生態系サービスを活かした伝統的な生活が近代※に至るまで培われてきました。わたしたちは、関東地域において、多様な主体の協働・連携によりコウノトリ・トキを指標（シンボル）とした河川および周辺地域の水辺環境等の保全・再生に取組み、水と緑が豊かなエコロジカル・ネットワークの形成を進めます。そして、コウノトリ・トキの野生復帰を通じた「環境の世紀」にふさわしい地域振興・経済活性化方策にも並行して取組み、魅力的かつ内発的な地域づくりのための広域連携モデルの形成を推進します。

※昭和 30 年代頃までを含む

● 基本方針



1. 関東地域はコウノトリ・トキのかつての主要な分布域であり、人々の生活・生業との係わりが深く歴史的・文化的な痕跡が数多く残されています。また、両種は生態的な特性が近いことから、コウノトリ・トキの野生復帰を通じたエコロジカル・ネットワークの形成に際して、両種とともに野生復帰の目標とし、対象地域間の連携を図りながら関東全域への魅力的な地域づくりの展開を進めます。
2. コウノトリ・トキの野生復帰に当たっては、安定的な生息が可能となる環境（ハビタット）を保全・再生する取組みと共に、対象とする地域の人々の暮らしとコウノトリ・トキとの関係が安定的・持続的に形成されることが不可欠となります。すなわち、採餌環境としての河川・湿地・水田等、営巣・孵卵環境としての樹林地について、コウノトリ・トキの生息条件を満たす環境の整備が必要であり、それらを支える地域の人々の理解と協力に基づく取組みを進めます。
3. その上で、コウノトリ・トキの保護増殖数の現状と先行事業地における目標や進捗との整合等を勘案し、野生復帰が先行的に進められているコウノトリを当面の対象に、関東地域での野外放鳥（リリース）の実現を目指します。トキは佐渡の取組み状況を勘案しながら検討を継続します。
4. コウノトリ・トキの野生復帰は希少生物の保護や生物多様性の改善のみならず、地域振興や経済活性化にも大きな役割が期待されます。そのため、環境対策としての基本を踏まえながら、地域ごとの個性に応じた魅力的かつ内発的な地域づくりに向けた取組みを積極的に推進します。



4. 関東地域における取組みの課題

(1) 取組みの推進に係る共通事項について

- ・ 関係する多様な主体間における取組み目標の共有と、目標実現に向けた計画的、効果的な取組みの推進

(2) コウノトリの保護・増殖と野生復帰について

- ・ 野生復帰の考え方・目標・進め方の共有
- ・ 飼育・放鳥拠点の整備の推進
→野生復帰を支える新たな飼育・放鳥拠点の確保と放鳥拠点・人工巣塔の適地への整備による定着化の促進
- ・ 放鳥・野生復帰の円滑かつ効果的な推進
→放鳥の推進および行政界を超えて移動するコウノトリのモニタリングおよび管理の考え方の検討、共有
- ・ コウノトリおよび野生復帰の取組みに関する地域住民の関心・理解の推進

(3) コウノトリの生息環境の保全・再生について

- ・ コウノトリの生息環境評価手法の改善
→最新の知見や専門家の意見を反映させた調査・評価手法の更新、多様なスケールでの評価についての検討、生息環境整備目標の設定の検討と順応的な対応等
- ・ コウノトリの生息環境（主に採餌環境）としての河川の保全・再生
→河川におけるコウノトリの採餌環境に資する浅水域、湿地、低茎草地などの積極的かつ効果的な整備
- ・ コウノトリの生息環境（主に採餌環境）としての農地の保全・再生
→用排水路の水域の連続性の低下、乾田化による冬季の水生生物の生息環境の減少、農薬の散布による餌生物への影響等への対策
- ・ 流域一体となった生息環境整備
→堤内外の取組みの統合、流域単位の湿地環境整備
- ・ コウノトリの生息環境（主に営巣・埒環境）としての樹林地の保全・再生
→里山林の現況把握および保全、営巣に適した巨樹・巨木、樹林地の育成

(4) コウノトリの野生復帰を通じた地域振興・経済活性化について

- ・ 各エリアの現状把握および事業効果の把握
- ・ 多様な主体の参加および地域の盛り上がりの創出
- ・ 各エリアで取組む地域振興・経済活性化方策の支援および関東地域全体で取組む方策の検討
- ・ 継続的および発展的な取組みに向けた仕掛けづくり
→継続的な普及啓発、活動支援の組織づくり、人づくり、活動資金の確保、他地域との連携協力の推進

5. 課題解決に向けたプログラム

(1) 取組みの推進に係る枠組みづくりと運用（共通事項）

- 『関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本構想』および『基本計画』の推進
- 関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会、専門部会の継続開催および各流域エリア協議会、研究機関等との連携

(2) コウノトリ飼育・放鳥条件整備（たね地づくり）

■事前調査・計画等

- 関東地域における野生復帰の考え方の検討・整理（野生復帰推進方針の共有）
- JAZA*¹、IPPM-OWS*²、関東以外の先進地域との連携・協働による野生復帰の推進

■飼育・放鳥拠点の整備と個体の飼育・管理

- 飼育・放鳥拠点が備えるべき基本条件の明確化
- 飼育・放鳥拠点の整備の推進と整備等に係る支援施策の検討
- 関東広域における拠点整備適地の評価、候補地の検討
- 人工巣塔の適正配置に係る基本条件、考え方の整理
- 関東地域の各放鳥拠点における飼育・保護増殖実施状況に関する情報の収集・共有

■放鳥・野生復帰

- 放鳥条件に関する情報の整理、関東における考え方の整理
- 野外における個体管理に係る基本的な考え方・課題の共有
- 野外個体の管理に係る広域的な対応等に係る制度・仕組みの検討、構築
- 関東地域における野外個体の広域的なモニタリングに係る検討
- 関東広域における目撃情報の収集・活用の仕組みづくりの検討・推進

■受入れ環境の把握・受入れ環境づくり

- 拠点地域周辺におけるコウノトリの受入れ環境づくりに係る先進地情報の収集
- 関東地域におけるコウノトリの野生復帰に係る認識・理解の促進

* 1：公益社団法人 日本動物園水族館協会 * 2：コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル

(3) コウノトリ生息環境整備・推進（定着地づくり）

■現状把握・計画

- 調査・評価手法の更新、および調査・評価手法マニュアルの作成
- 河川整備計画や河川内の現況をふまえた湿地再生目標の設定
- 湿地再生を兼ねた掘削を考慮するなど治水と環境が一体化した河川のコウノトリ生息環境整備方針の作成および河川関連計画への方針の反映
- 農地のコウノトリ生息環境整備方針の作成および農地関連計画への方針の反映

■河川における治水と一体化した生息環境整備

- 河岸浅場の保全・再生・創出
- 多様な生物の生態も考慮した湿地環境の保全・再生・創出
- 流域の地域特性を反映した湿地環境の保全・再生・創出
- 生息環境整備（保全・再生・創出・維持管理）のための推進体制づくり
魚道の整備・改善、水域の連続性の確保

■農地における生物多様性の豊かな生息環境整備

- 生物多様性を育む、安全・安心な農業の推進
- 水田の冬期湛水の推進
- 生物多様性保全に配慮した生産基盤*の整備
- 荒廃農地をビオトープとして活用
- 湧水のある谷津を活かした採餌環境の確保
- モニタリング調査結果を反映した順応的管理
- 効果的な「生物多様性に配慮した生産基盤のあり方・農法」に関する情報収集、蓄積

* 生産基盤とは、農業生産に用いる水田、用排水路、畑、草地等を指す。

■流域一体となった生息環境整備

- 河川、農地における取組みの整合
- 取組みの統合化による流域一体となった生息環境整備

■営巣・埒の適木育成、里山林づくり

- 営巣木となるアカマツ等の育成・保全
- 里山林の保全・管理
- なわばりや生息環境適性を考慮した、周辺環境と調和した人工巣塔の配置

（４）コウノトリ地域振興・経済活性化（人・地域づくり）

■現状把握・効果検証

- 各エリアにおける地域振興・経済活性化に係る情報収集・整理
- 経済波及効果の試算と検証
- エコロジカル・ネットワーク形成がもたらす多面的効果の検証（生物多様性・防災・減災・癒し効果等）
- 多様な主体の意識動向の把握

■多様な主体参加の仕組みづくり

- 環境教育および食農教育の推進
- 高齢者・障がい者等にも参加しやすい仕組みの検討
- 多様な主体の参加に向けたインセンティブの検討
- 多様な主体の参加に向けた情報収集・蓄積・発信
- 環境調査および自然再生・維持管理作業への参加促進
- 体験活動および人材育成の場の提供
- コウノトリをシンボルとした各種サイン等の整備
- 継続的なマスメディアとの連携促進・情報発信

■コウノトリをシンボルとした地域振興・経済活性化の推進支援

- コウノトリをシンボルとした観光プロモーションの推進
- 体験プログラムの検討
- エコツーリズムおよびグリーンツーリズムの推進
- 各エリア内の環境にやさしい農産物および農産加工品の生産・販売支援
- 多様な物流・販売ルートの開拓・確保
- 関連商品の開発支援
- 地域の自然を活かした地域振興・普及啓発の事例集の作成

■プロジェクトの継続・発展に向けた仕掛けづくり

- 民間活動に対する支援の検討
- 人材育成の支援（環境教育、福祉教育等）
- エコネット流域サポーター（仮称）の設立支援
- 取組みの支援策（表彰制度等）の検討・実施
- 定期的なイベントの実施
- コウノトリをシンボルとした基金の設立
- 他地域との連携協力の推進

6. 目標設定・ロードマップ

（１）短期目標（2020 年）

- ◆ 関東地域の複数の流域において、コウノトリの飼育・繁殖、野生復帰に向けた取組みが推進されている。（たね地づくり）
- ◆ 関東地域の河川で治水と環境が一体となった湿地の整備・保全が、農地では生物多様性を育む農法や基盤整備の取組み等が進められている。（定着地づくり）
- ◆ 関東地域におけるコウノトリの野生復帰の取組みに多くの市民が参加し、協力する市民団体や企業等が広がっている。（人・地域づくり）

（２）中期目標（2030 年）

- ◆ コウノトリの関東地域個体群の形成が進んでおり、日本全国および東アジアにおける個体群間の交流がはじまっている。（たね地づくり）
- ◆ コウノトリの関東地域個体群が自活して繁殖・生息できる湿地環境の改善が、流域一体となって進められている。（定着地づくり）
- ◆ コウノトリ・トキと共にくらせる地域を誇りとし、地域経済および社会を構成する様々な主体の参加で賑わっている。（人・地域づくり）

（３）到達目標（2050 年）

コウノトリやトキが絶滅の危機から脱し普通種になっていると共に、河川や農地等の水辺には多様な生物にあふれた魅力的な空間が形成されている。また、自然空間を活かした賑わいのある地域づくりが進み、都心部とそれを取り巻く周辺地域との対流現象を契機に、グリーンインフラにより関東地域の安全・安心が担保され、環境と経済と社会が調和した持続可能な社会が形成されている。

（参 考）

- 2010 年に、愛知・名古屋において世界 172 の国・地域の参加のもと「生物多様性条約第 10 回締約国会議」が開催され、「愛知目標」等の採択により、「生物多様性の保全」が、地球規模で解決が求められる緊迫の政策課題であることが広く国民に周知された。
- 愛知目標では、2050 年までの長期目標（Vision）として「自然と共生する世界」の実現を、2020 年までの短期目標（Mission）として「生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施する」ことを掲げている。